

<p>各委員から出された意見</p> <p>委員から出された意見（抜粋）</p>	<p>主な論点 【主なキーワード】 ※抜けている重要な論点などがあれば、追加する。</p>	<p>（第2回審議会での協議事項） 現在のしくみ・制度で解決できていないことは？足りないものは？（今のしくみで解決できるものはないか。（仕組み等がある場合）なぜ活用できていないのか。） ※誰が、どのようにやるのかも考えながら。</p>
<p><b>人材育成・市民意識向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハザードマップの活用のための地域住民への勉強会を定期的開催する。</li> <li>現在、活動している自治会の見守り隊間の交流や交通指導隊による研修。その活動を広報し、各自治会に広めることが必要。見守り活動への関心や重要性、担い手の減少が障害。</li> <li>当町内会を例に挙げると、中学校までの避難訓練を兼ねて避難所での生活体験や避難所運営等についての研修を定期的に実施する。中学校、社会福祉協議会、防災関連機関の協力が必要。住民の防災意識を高める。</li> <li>社協による出前講座を。</li> <li>基点が必要。オンライン会議等の必要性を考える。テーマは、参加者の意思で決定し、リーダーやコーディネーターが育つようサポートする。座談会、その後の活動を見守るサポーターが必要。</li> <li>一歩踏み出すリーダーが居ること。</li> <li>次のリーダーを育てる人材育成。</li> <li>地域の見守り隊の人材の確保。継続すること。</li> <li>コロナ禍のために、実現できずに時間が経過している。柴田町でも幾つかの子ども食堂が休止している。長期にわたって継続するためには、ボランティアの確保も重要だが、食材や材料費等を購入するための資金の確保が課題になる。合わせて、子どもたちの学習支援を仙台大学生や地元の大学生、高校生などをお願いするので、彼らへの昼食の提供、薄謝だがアルバイト代も検討したい。そのために、フリーマーケットの開催、募金活動も行ってはどうか。（ゆるぶらで常設してできるスペースを作り収益を各子ども食堂に配分する）</li> <li>ボランティア頼りも限度がある。場合によっては有償の考えも必要（人材不足解消）。</li> <li>窓口（区長、企業担当者、大学やその他の担当となる人）が話を聞かない、話しにくい。</li> <li>イベントや文化祭・芸術展等文化活動もユニバーサルな視点を担当者が持ち、どんな人も受け入れられるようにする。</li> <li>最大の困りごとは「他人任せ」「無関心」→批評家になっている→当事者になってもらう（役員、世話役等の裏方に協力要請）。</li> <li>まちづくりに対する住民の意識向上（住み心地の良い環境、地域は自分たちで作る）。</li> <li>まちづくりは誰かがやる、区長や区の役員、行政がやる事と思い、苦情しか言わない。</li> <li>「居心地の良い歩きたくなる街へ」あなたにできることは何ですか（仙台市）住民の意識向上へ地道な働きかけ。</li> <li>仲間を増やす広報活動をする。</li> <li>地域活動が活発なので、高齢者の見守りや声掛け、ゴミ出し支援等への展開。地区行事に参加しない人へのゆるい促し活動。</li> <li>「マナー向上」の問題は、学生も生活する地域社会の一員なのだという意識づけが必要で、そのためには学生と地域住民との交流の場があると良いのだが…。大学でも入学時のオリエンテーションなどで指導はしているが、学外での日常生活にまで目が行き届かないのが実情のようだ。</li> <li>さらに良くするために…例えば、マナー違反の大学生に対し、地区ごとに様々な対応をしているが、犯人探しては無く育てることも地域の大人の役割だと思ふ。地域、大学、学生、行政などで連携しみんなが住みよい環境にしていけたらと思う。</li> <li>人が集まる週末に協力してくれる大学生が必要。</li> <li>普段から個人的なレベルで避難先を作る様推奨する。行政レベルで個人的な避難先づくりは困難。</li> <li>目的、目標を自分のものとして、情報の検索を行う（デジタル化に反対ではないが、まだまだアナログを活用している必要者がいる。弱者といわれている方々は訓練が必要。）。</li> <li>まず自分が一歩踏み出すことが連携のスタート。</li> <li>前提となる条件①個人の好きなこと、趣味のつながりが連携の条件。②行政区ごとの温度差が大きく、連携の前に整理すること。</li> </ul>	<p><b>人材育成・市民意識向上</b></p> <p>○学習の場づくり 【地域住民への勉強会、各種担い手への研修、定期的な実施、出前講座等の制度、座談会、オンライン活用、実践】</p> <p>○人材が生まれやすい、確保しやすい環境づくり 【リーダー、コーディネーターの育成、ボランティアの確保、有償ボランティア、資金の確保、人材不足、他人任せ、苦情】</p> <p>○当事者意識の醸成 【住民の意識向上、地域は自分たちで作る、他人任せ、地道な働きかけ、関心を高める、無関心】</p> <p>○誰でも（個人レベルでも）取り組める工夫 【ゆるい促し、広報活動、学生への意識付け、自分事、一歩踏み出す、どんな人も受け入れられるようにする、訓練、好きなことや趣味のつながり】</p>	<p>○学習の場づくり</p> <p>○人材が生まれやすい、確保しやすい環境づくり</p> <p>○当事者意識の醸成</p> <p>○誰でも（個人レベルでも）取り組める工夫</p>

<p>各委員から出された意見</p> <p>委員から出された意見（抜粋）</p>	<p>主な論点</p> <p>【主なキーワード】</p> <p>※抜けている重要な論点などがあれば、追加する。</p>
<p><b>体制整備・しくみづくり・場づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口があり、相談内容によってどの窓口へ行くかが分かりやすい。又は<u>気軽に訪れることが出来る窓口</u>であること。（住民目線で）</li> <li>発想はあっても<u>遠慮や気後れで声に出せない</u>。</li> <li>どこの<u>誰に相談すべきか分からず、道筋を作れない</u>。</li> <li><u>きっかけや働きかけがあること</u>。連携先と話し合いの場を持つことが出来ている。</li> <li><u>何らかの働きかけがあり、労せずに取り組める</u>。</li> <li>住民の差し迫った要望により、<u>区長が働きかけ</u>を行う（誰が何をすべきかが明確な事）。</li> <li>さくら祭り時の町内おもてなし作戦の一環として、さくら祭り実行委員会（行政側）からの働きかけで始まった事です。企業も1社ではなく沿道の数社に及ぶことから、1行政区での働きかけは難しかったと思います。せっかく繋がった関係を、今後他の事にも活かせるように、発展させていく努力が必要と思います。</li> <li>団地内の道路等、道に関する景観に関係した<u>条例等</u>で車・歩道をきちんとする（地域住民協力）。</li> <li><u>防災訓練や災害協定</u>。</li> <li><u>地区と企業間の災害時の協定が必要</u>。</li> <li>水害・地震を想定しての1次2次<u>避難訓練</u>（行政や社協等の出前講座の活用）</li> <li>他の地域で何をしているか、何をしたいと思っているか又は、<u>どんな困りごとがあるか情報を得ることが出来る</u>（情報）。</li> <li>各行政区の状況が不明なので、<u>行政区毎の現在の状況把握ができるようなデータの公開</u>をし、近くの行政区で区長、各部会の話し合いなどを経て共同（合同）ならできると検討する。</li> <li><u>近隣地区との協議、交流が必要</u>。</li> <li><u>相互理解（顔の見える関係性）が必要</u>。</li> <li>今後、種々の会議の中で具体的な協議内容を募集・議論する機会を設定すればよい。</li> <li>公園除草は、町内会で分担して一斉清掃日に実施し、<u>地域交流の場</u>としても機能。</li> <li><u>地域づくり推進協議会</u>を核として、こども食堂や地域食堂等の「みんなの居場所」を定期的開催し<u>世代間交流や元気高齢者の活躍場づくり</u>をする。</li> <li>地域づくり推進協議会の担い手の高齢化、減少が課題。貴重な地域交流の場として、<u>参加者層に合わせた行事や参加の方法等も工夫</u>することが必要。</li> <li>中学校の防災学習や学校連携として<u>学校行事に地域も一緒に行く</u>。（従来だと、地域行事日程を優先しているので学校日程に地域が合わせてみる試み）</li> <li><u>学校関係に協力要請し、受け入れ地区団体が管理</u>（行政区、育成会、子ども会等）（小、中、高、大等と）。</li> <li>子ども会のない地区（船岡小地区）があるので、そういった地区は他の子ども関係の組織との<u>連携が必要</u>。</li> <li>船迫中学校が行っている活動を地域がもっと評価してあげるべき。</li> <li>社協、ゆるぷら、学校支援コーディネーター（町生涯学習課）の<u>中間支援同士が横でつながり情報共有</u>を行っている。</li> <li>当町内会を例に挙げると、中学校までの避難訓練を兼ねて避難所での生活体験や避難所運営等についての研修を定期的に実施する。<u>中学校、社会福祉協議会、防災関連機関の協力が必要</u>。住民の防災意識を高める。</li> <li>出前講座のメニューがあるので、アレンジをして実施が可能（こどもから高齢者までバリエーションあり）。避難所運営は町とも連携が必要であり、<u>町、社協それぞれの出前講座メニューの中で、相互に連携が可能</u>になっていればいい。</li> <li>行政区内では防災について、話し合い等がされているようなので、<u>社会福祉協議会から避難所での体験や避難所運営についての学習会（プログラム）の提案をおねがいできると良い</u>のではないかと。</li> <li>社協による<u>出前講座</u>を。</li> <li>マイタイムライン等、<u>家族用、地区用等作成し、災害時の協力体制を作る</u>（弱者を考えて）（個人情報）。</li> <li>普段から個人的なレベルで<u>避難先を作る様推奨</u>する。行政レベルで個人的な避難先づくりは困難。</li> <li>基本的には、町が指定した避難所以外設定は極めて限られる。その上での<u>避難への種々の対応策が必要</u>となる。</li> </ul>	<p><b>体制整備・しくみづくり・場づくり</b></p> <p>○気軽に声を出せる、相談ができるしくみづくり</p> <p>【訪問しやすい窓口、遠慮、気後れ、相談先、小さな声の拾い方】</p> <p>○連携を推進するための動機づくり</p> <p>【きっかけ、働きかけ、条例、協定、訓練、講座、情報】</p> <p>○多様な団体、組織が連携するための工夫、しくみ、場づくり</p> <p>【近隣地区との協議・交流、相互理解、顔の見える関係、世代間交流、高齢者の活躍の場、参加者層に合わせた対応、学校との連携（小・中・高・大）、小学校区、広域、中間支援組織、災害時の協力体制、コラボ、ゆるぷらの活用、場の提供、民間事業者、地域相互補完、双方のメリット】</p> <p>○大学・大学生との連携の工夫</p> <p>【大学との協議・連携する体制づくり、意思疎通、専門の学生への声掛け、調査研究、有償ボランティア】</p>

<p>（第2回審議会での協議事項）</p> <p>現在のしくみ・制度で解決できていないことは？足りないものは？（今のしくみで解決できるものはないか。（仕組み等がある場合）なぜ活用できていないのか。）</p> <p>※誰が、どのようにやるのかも考えながら。</p>
<p>○気軽に声を出せる、相談ができるしくみづくり</p> <p>○連携を推進するための動機づくり</p> <p>○多様な団体、組織が連携するための工夫、しくみ、場づくり</p> <p>○大学・大学生との連携の工夫</p>

各委員から出された意見	主な論点
委員から出された意見（抜粋）	<b>【主なキーワード】</b> ※抜けている重要な論点などがあれば、追加する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>町の政策担当が、基本構想にのっとり、ハザードマップに基づき、<u>これまでより避難地域を絞った内容とする</u>。町全体に避難指示を出すのではなく、00丁目～00丁目の方避難・・・。</li> <li>仙台大学を主な提携先として、<u>行政の中に専門に大学と協議・連携する機能を持つ組織づくりが必要</u>と思う。</li> <li>「学習支援」を仙台大学の学生に求める場合、<u>教員志望の学生も多くいるので、それらの学生を対象に声がけする</u>のが望ましいだろう。</li> <li><u>大学生及び大学との意思疎通を図り、内容を検討し実施する</u>。</li> <li>「こども博」はイベントとしてだけでなく、<u>通年を通じて地域が学生のフィールドワークや研究データとして住民と連携、地域課題を学生が研究テーマとする</u>。</li> <li>人が集まる週末に<u>協力してくれる大学生が必要</u>。</li> <li>「<u>仙台大生によるカフェとしてゆるぷらを活用</u>」については、<u>運動栄養学科の学生が対象に考えられる</u>と思う。しかし「ゆるぷら」のある場所が大学から遠いのが気にかかる。以前意見として述べたように、<u>大学の近くの以前焼き肉の「都」の跡地に「ゆるぷら」のような施設があれば、授業の空き時間に学生が交代でカフェを運営できるようになれば実現の可能性は高い</u>と思う。</li> <li>仙台大のカフェ構想について、<u>その中にゆるぷら支店を併設し、町民の意見を吸い上げる</u>。</li> <li>コロナ禍のために、<u>実現できずに時間が経過している</u>。柴田町でも幾つかの子ども食堂が休止している。長期にわたって継続するためには、ボランティアの確保も重要だが、<u>食材や材料費等を購入するための資金の確保が課題になる</u>。合わせて、<u>子どもたちの学習支援を仙台大学生や地元の大学生、高校生などをお願いするので、彼らへの昼食の提供、薄謝だがアルバイト代も検討したい</u>。そのために、<u>フリーマーケットの開催、募金活動も行ってはどうか</u>。（ゆるぷらで常設してできるスペースを作り収益を各子ども食堂に配分する）</li> <li>ボランティア頼りも<u>限度がある</u>。<u>場合によっては有償の考えも必要</u>（人材不足解消）。</li> <li>高齢者疑似体験として「<u>買い物やクッキング</u>」。<u>町内福祉施設等連絡協議会とのコラボ</u>で福祉施設見学や介護体験会を実施する。</li> <li>仙台大学栄養学科との<u>コラボ</u>、柴田農林高や大河原商業校との<u>コラボ</u>、小学生から「<u>夢のケーキコンテスト</u>」イラスト募集し、<u>町内パティシエが製作</u>。</li> <li><u>柴田町内から行政区や町内会単位で取り組み、広げていく</u>。お庭自慢等を町内会報に掲載したり、集会所での<u>展覧会を開く</u>。住民からの情報提供および承諾が必要。また<u>地域間の会報を通じ地域交流できるとさらに花の町にふさわしい</u>。</li> <li><u>場を広げる</u>（まちづくり株式会社・ナルミキッチン・4区集会所・キャンパス内・コンビニ）が必要。</li> <li>「<u>東北子ども博</u>」について、<u>今年はコロナ感染防止策として事前登録性にして準備を進めていたが、8月に緊急事態宣言が出されたことから、開催中止となってしまった</u>。コロナが完全に終息するにはあと2～3年かかるともいわれており、<u>地域と大学が連携するイベントにするには、効果的な感染対策が欠かせない</u>と思う。</li> <li><u>アフターコロナであれば、地域食堂としても可能</u>。</li> </ul>	

（第2回審議会での協議事項）
現在のしくみ・制度で解決できていないことは？足りないものは？ （今のしくみで解決できるものはないか。（仕組み等がある場合） なぜ活用できていないのか。） ※誰が、どのようにやるのかも考えながら。

<p>各委員から出された意見</p> <p>委員から出された意見（抜粋）</p>	<p>主な論点 【主なキーワード】 ※抜けている重要な論点などがあれば、追加する。</p>
<p><b>情報発信・情報共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社協、ゆるぷら、学校支援コーディネーター（町生涯学習課）の中間支援同士が横でつながり情報共有を行っている。</li> <li>・ 防災士、自主防災組織、消防団間で例えば小学校区等でグループを作り、情報交換し情報を公開し、各町内会での活動の参考にする。グループのリーダー、コーディネーター、情報交換できる環境が必要。</li> <li>・ 町内会の防災士が他の地区の防災士と情報交換し、町の防災関係機関と連携を図ることが必要。各地区は、その情報を住民に分かりやすく伝える。</li> <li>・ 情報が住民みんなに伝わること 情報発信は受け取りやすさを工夫し、様々な形で発信する。</li> <li>・ 行政への不信感、情報開示が不十分（都合の悪いことは開示されない）。</li> <li>・ 町のメール、ラインの登録を進める。</li> <li>・ 福祉課・スポーツ振興課で実施している。周知の仕方の工夫が必要。</li> <li>・ 他の地域で何をしているか、何をしたいと思っているか又は、どんな困りごとがあるか情報を得ることが出来る（情報）。</li> <li>・ 各行政区の状況が不明なので、行政区毎の現在の状況把握ができるようなデータの公開をし、近くの行政区で区長、各部会の話し合いなどを経て共同（合同）ならできると検討する。</li> <li>・ 各種発信されているが、受信する側が目的をもって検索する。単位地域内での広報（昼夜の不在等）。</li> <li>・ 目的、目標を自分のものとして、情報の検索を行う（デジタル化に反対ではないが、まだまだアナログを活用している必要者がいる。弱者といわれている方々は訓練が必要。）。</li> <li>・ 柴田町内から行政区や町内会単位で取り組み、広げていく。お庭自慢等を町内会報に掲載したり、集会所での展示会を開く。住民からの情報提供および承諾が必要。また地域間の会報を通じ地域交流できるとさらに花の町にふさわしい。</li> <li>・ 「オープンガーデン」だけをクローズアップするのではなく、地道に実施しているところもなんらかのかたちでとりあげてほしい。</li> <li>・ 船迫中学校が行っている活動を地域がもっと評価してあげるべき。</li> <li>・ 町の政策担当が、基本構想にのっとり、ハザードマップに基づき、これまでより避難地域を絞った内容とする。町全体に避難指示を出すのではなく、00丁目～00丁目の方避難・・・。</li> <li>・ 備蓄は、大方完了した。避難については、更新した防災マップに掲載し、情報を提供。避難訓練については、中学校との連携が参加意識を高める可能性がある。</li> <li>・ <u>仲間を増やす広報活動をする。</u></li> </ul>	<p><b>情報発信・情報共有</b></p> <p>○他の地域、組織との情報交換の仕方 【中間支援同士、他の地区との情報交換、小学校区、町内会、防災士、自主防災組織、消防団、横のつながり】</p> <p>○伝わりやすい情報発信の方法、工夫 【みんなに伝わる、受け取りやすい、様々な形、情報開示、メール、ライン、受け取り側の意識、情報弱者】</p> <p>○情報発信の内容 【他の地域の情報、データの公開、町内会単位の情報、各地域の情報収集・整理・発信】</p>
<p><b>資金</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍のために、実現できずに時間が経過している。柴田町でも幾つかの子ども食堂が休止している。長期にわたって継続するためには、ボランティアの確保も重要だが、食材や材料費等を購入するための資金の確保が課題になる。合わせて、子どもたちの学習支援を仙台大学生や地元の大学生、高校生などをお願いするので、彼らへの昼食の提供、薄謝だがアルバイト代も検討したい。そのために、フリーマーケットの開催、募金活動も行ってはどうか。（ゆるぷらで常設してできるスペースを作り収益を各子ども食堂に配分する）</li> </ul>	<p><b>資金</b></p> <p>○収入を得るためのしくみづくり 【活動継続、資金の確保、フリーマーケット、募金活動、ゆるぷらの活用】</p>

<p>（第2回審議会での協議事項）</p> <p>現在のしくみ・制度で解決できていないことは？足りないものは？（今のしくみで解決できるものはないか。（仕組み等がある場合）なぜ活用できていないのか。） ※誰が、どのようにやるのかも考えながら。</p>
<p>○の地域、組織との情報交換の仕方</p> <p>○伝わりやすい情報発信の方法、工夫</p> <p>○情報発信の内容</p>
<p>○収入を得るためのしくみづくり</p>